

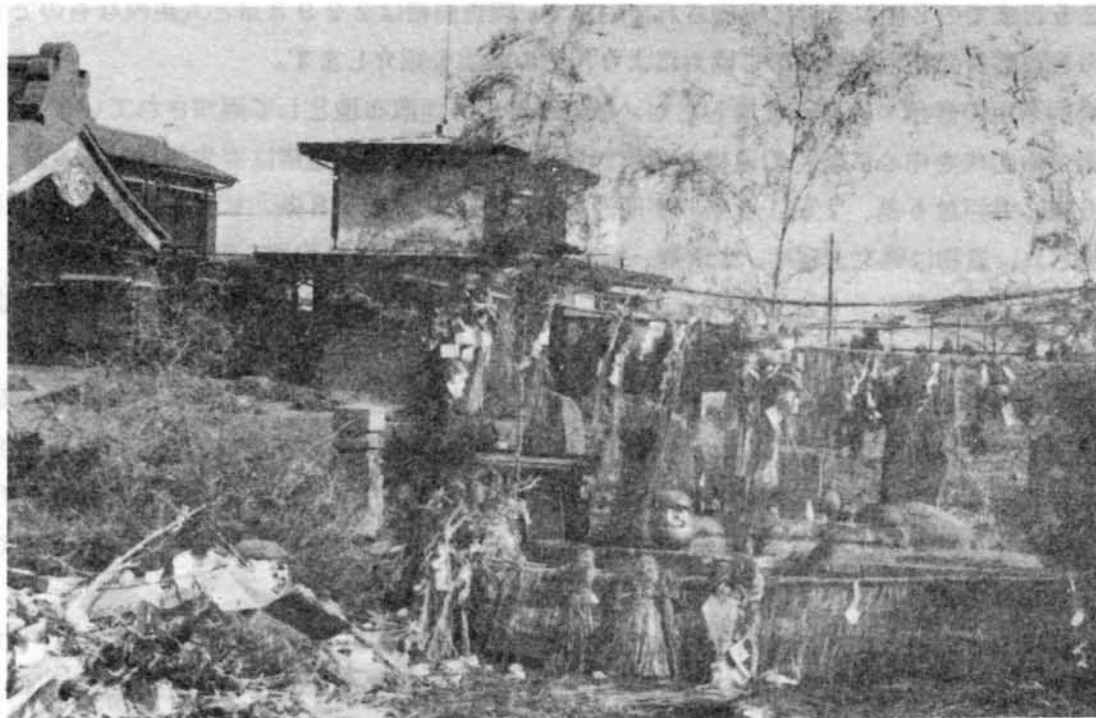


あなたと博物館

HIRA TSUKA CITY MUSEUM

'99 1月号

セエトバライの小屋
(昭和五〇年 入野八坂神社)



あけましておめでとうございます。

平成11年の新春を迎え、皆様と共に喜び申し上げます。

博物館は昨年(平成10年)の2～4月に、主に2階常設展示室の全面展示替えを行い、5月1日から市民の皆様にご公開することができました。一新された展示室には、海・大地・村・都市というサブテーマに沿い、博物館の主テーマ・相模川流域の自然と文化についての最新情報を展示するとともに、長年にわたる蓄積の成果である豊富な情報をビジュアルな形で取り出す情報コーナーも設けております。

昨夏の「相模国府とその世界」展は、多くの市民の高い関心を呼び、平塚市の考古学百年にふさわしい事業として大いに注目されましたし、続いて秋の「平塚の仏像」展も好評を博しました。これらも、市民の皆様のご多大なご支援によるものと厚く感謝を申し上げます。

今年は、春3月からの様々な鉱物・岩石の種類や結晶の形、それらが身近な生活にどう利用されているかなどの紹介をする「暮らしの中の鉱物」展、夏には西部丘陵を中心に平塚における自然の四季による変化などの展示、秋には神奈川県において道祖神が地域に果たした役割等を紹介する道祖神信仰展を企画し、特別展として開催する予定で準備を進めております。

今年も、市民の方々の博物館に対する種々の願いに応えられるよう職員一同が懸命に努力してまいりますので、ご支援とご協力をひとえにお願い申し上げます。

館長 川手十芽男

寄贈品コーナー「七ノ域遺跡展」

期間：平成11年1月5日～2月14日

平成10年3月に平塚市教育委員会から『七ノ域遺跡―第2地点―』の発掘調査報告書が刊行されました。調査は平塚市遺跡調査会が平成3年5月28日から11月30日と平成4年4月11日から5月25日までの2回に分けて実施されています。調査面積は2298㎡と大規模なものです。今回、平塚市教育委員会社会教育課のご協力により、その成果を紹介します。

標高約9mの砂州・砂丘に立地した七ノ域遺跡は土師器散布地として周知されています。今回の調査成果でも古代を中心に多くの遺構と遺物が発見されています。遺構は竪穴住居址34基、掘立柱建物址6棟、井戸址5基、土坑16基、不明遺構3基、溝状遺構78条、ピット547基の計689基が発見され、遺物は縄文土器片、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、陶磁器、金属製品、石製品、墨書土器など総重量250kgと膨大な遺物が出土しています。遺構と遺物から、この遺跡は奈良・平安時代を中心として展開されたことが分かります。

遺物の中から面白いものをいくつか紹介します。一つは住居址から出土した錠前を開ける鍵です。全国で出土した鍵の中で最大の14.3cmを測るもので、また柄の部分に螺旋状の振りの溝が加工されている大変貴重なものです。同規模のものは藤沢市南梶山遺跡の一例、螺旋状に加工されたものは奈良県平城京の長屋王邸宅跡と東京都の落川遺跡と二例しか出土していないもので、この大きさと柄に振りの加工したものは、現時点では日本初発見といえます。

二つ目は9世紀後半に不明遺構から出土した墨書土器の内面に「安宗太田部麻呂□伏」「伏□□□□□□□安」と縦に2行に同じ文字が折り返された大変珍しい内容のものです。外面には「仁」の文字が書かれています。しかし、この文字の意味については分かっていません。平塚で出土した最多文字の墨書となります。出土した遺構の性格も分かっていません。しかし、個人的な考えでは、一つは「伏」と「仁」の意味から、比較的有力な官吏または富裕な豪族の墓地と考え、石は墓標的な意味かと思えます。そうすると、墨書は「郡名+人名+□」の記載順と考えます。もう一つは土師器甕と小型甕は土坑の中に埋設されたような出土状態であること、大きな石がそばにあること、遺構は竪穴住居的であることから、鍛冶工房に関連した施設とも考えられます。

三つ目は、発見された遺構には奈良時代前後の竪穴住居址がかなり見られ、同時期と考えられる南北に延びる溝が目立ちます。この遺跡は相模国府関連遺跡群の一画に入ります。国府は旧国造の拠点（伊勢原市比々多周辺）に設置されたものではなく、新たに中央政府の意向によって官道（東海道）に沿って8世紀前半に造営されたものです。国府が完成するまでに、大住評家（郡衙）を造営し、そこに国宰（国司）が居住したと考えます。本遺跡の奈良時代以前の竪穴住居と区画溝は、評家の一部と理解します。稲荷前A遺跡の8世紀第2四半期の「大住厨」墨書土器、天神前第7地点の8世紀初頭の鍛冶工房跡はそれを傍証する資料かと思えます。

このように、この遺跡の持つ意義は単に国府関連遺跡と捉えるのではなく、国府成立以前の大住評家としての位置づけをすることによって、より一層の相模国府問題が明らかにされるものと考えます。



相模の道祖神祭のみどころ

1月14日には市内各所でセエトバライが行われます。平塚市ではお馴染みの小正月の風物詩ですが、県内のどこでも見られるわけではありません。横須賀市や鎌倉市など境川以東の地域は、現在ほとんど行っていません。概して県西部の方が盛んで、道祖神を祀っている所ならたいがい団子焼きをしています。ことに、伊勢原市、秦野市、大磯町など平塚市周辺はいろいろな形のお仮屋やセエト（三角錐形の焼き物）を見て歩くには最適の地域と思います。このうち、独特の風習を伝えている地区の行事をいくつか紹介することにしましょう。

伊勢原市神戸

ここでは14日朝8時30分頃から公民館前にカミとシモのお仮屋2つが立ち、鎮守祭のように町内に注連縄が張り巡らされます。午後3時からの相模里神楽の囃子奉納が終わると、若衆がカミのお仮屋を神輿のように担いで町内を巡行し、6時頃鈴川畔のドンド焼きの火に投じます。自治会館で一杯やったあとシモのお仮屋を同じように担いで7時30分頃鈴川畔で燃やすと、若い衆に抱きかかえられた世話役が火の中に投げ込まれます。セエトの火にあたると無病息災になるとはどこでもいわれますが、人が火中にくべられるのはここだけではないでしょうか。強力な厄払いです。

秦野市西大竹

道祖神の回りの五輪塔などをセエトの火で焼き、持ち帰って一晩床の間に祀るという変わった風習が綾瀬市寺尾などで今も続けられています。ここに紹介する西大竹の石売りも同様の性格を持つ風習で、13日午後に道祖神の回りの石をリヤカーに乗せ、小学生の男の子達が地区の家々に売り歩きます。石の大きさによりあらかじめ値段が決めてあって、買った家は神棚の下に祀って15日朝戻します。石売りが終わると1軒1軒おでん売りに回ります。セエノカミの石を祀ることで、より道祖神のご加護を得ようという意味があります。14日になると、お仮屋の前で御神酒や団子、お札を売ります。このように、秦野市にはお仮屋の中でゴックを売ったり、手作りのお札を売り歩くなど昔ながらの風習が残る地域がまだまだあります。お参りされてみてはいかがでしょうか。

秦野市堀山下

道祖神祭りにからみ、かつて足柄上下郡の広い範囲で悪魔払いが行われていました。11日過ぎになるとおかめひょっとこなどの面を被った子供達が家々を回り、幣束を振りながら「アクマッバライ、アクマッバライ」と連呼し、ご祝儀を貰いました。こうした風習を現在も続けているのが、いずれも秦野市の堀山下上関、八沢大久保(13日)、平沢小原(14日)です。厄払いと言祝ぎを目的とした行事です。

大磯町東大磯

言わずと知れた大磯の左義長です。その壮大さと古風により平成9年度に国指定重要無形民俗文化財に指定され、名実ともに我が国を代表する道祖神祭です。実施するのは東大磯の坂下、浜町、大泊、子の神、中宿、浅間、大北、長者、山王の9集落で、サイトも浜に9つ立ちます。オンベ竹と松は11日に平塚市高根の山から買い、各集落ごとにこの日オンベと組み立て式小屋を作り、子供はお仮屋の中で過ごします。点火は14日午後7時30分頃で、海方と陸方の綱引きなど見所たくさんです。

小田原市前川

県西部の平野部では道祖神の山車や神輿が出ます。花笠や提灯などで飾り立てた山車に子供が乗り、笛や太鼓を鳴らして町内を巡行します。小田原市に多く残り、山北町山北は15日に出します。このうち、小田原市前川の向原と西組では、忠臣蔵や曾我兄弟仇討ちの人形を飾った華やかな人形山車を14日に見ることができます。

博物館カレンダー

1月の行事予定

5	火	◎	寄贈品コーナー「七ノ域遺跡展」 (～2月14日)	展示室
8	金		古文書講読会	講堂
9	土	◎	漂着物を拾う会 地質調査会 天体観察会「スターウォッチング調査」	海岸 屋上
10	日		民俗探訪会「渋沢駅～松田駅」	大井町
14	木		石仏を調べる会「道祖神祭調査」	野外
16	土	◎	平塚の空襲と戦災を記録する会 プラネタリウム「虹・太陽の光」 (～3月7日)	特研究室 プラネタリウム室
17	日	◎	ろばたばなし 地質調査会	展示室 特研究室
20	水		裏打ちの会 地質調査会	科学室 特研究室
22	金	◎	古文書講読会 星を見る会「冬の星座を見よう」	講堂 屋上
24	日		古代遺跡を探す会	野外
28	木		石仏を調べる会	特研究室
29	金		古文書講読会	講堂
31	日		相模川の生い立ちを探る会	弘法山

◎は参加自由 ○は申し込み制 他は会員制

2月の行事予定

5	金		古文書講読会	講堂
7	日		民俗探訪会「松田駅～東山北駅」	開成町
10	水		地質調査会	特研究室
12	金		古文書講読会	講堂
13	土		天体観察会「カノーブス」	海岸
14	日	○	こども観察会「冬を越す水鳥」 地質調査会	花水川 野外
16	火	◎	寄贈品コーナー「しし座流星群展」 (～3月30日)	展示室
17	水		裏打ちの会	科学室
19	金		古文書講読会	講堂
20	土		平塚の空襲と戦災を記録する会 地質調査会	特研究室 科学室
21	日	◎	ろばたばなし 古代遺跡を探す会	展示室 野外
25	木		石仏を調べる会	特研究室
26	金	◎	古文書講読会 星を見る会「月と惑星を見よう」	講堂 屋上
28	日		相模川の生い立ちを探る会	高川山

参加者募集

●こども観察会「冬を越す水鳥を見よう」

日時：2月14日(日)午後2時～5時
場所：花水川周辺(花水橋～平塚大橋)
対象：小中学生及びその保護者に限る
申込：往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、博物館「こども観察会」係へ
切：1月31日

●ろばたばなし

昔話と相模の伝説をお話します。
内容：日本武尊と立石(平塚)、ウサギとヒキの餅争い(岐阜)、若返りの水他
期日：1月17日(日)
時間：午前10時30分と11時の2回
場所：博物館1階展示室民家内 参加：自由

●星を見る会「冬の星座を見よう」

木星、土星と冬の星を観察します。
日時：1月22日(金)午後7時～8時30分
場所：博物館屋上(1階科学教室へ集合)
参加：自由 *曇天時中止

●寄贈品コーナー「七ノ域遺跡展」

平成3、4年度に調査された真土七ノ域遺跡の成果を公開します。

会期：1月5日(火)～2月14日(日)

●プラネタリウム

「ミラ型と呼ばれる星たち」

期間：1月6、7、9、10日

「虹・太陽の光」

二重の虹を見たことはありませんか？虹のほか日暈(ひがさ)、幻日など、太陽の光がもとになって起きる大気中の不思議な光と色の現象を解説します。

期間：1月16日(土)～3月7日(日)

投影日時：土日曜日の11時と14時

観覧料：100円

●漂着物を拾う会

海岸へ流れ着いた生物や人工物を拾って調べます

日時：1月9日(土)午前9時30分～11時

集合：花水川橋平塚側もとと記念碑前

参加：自由(雨天中止)

あなたと博物館 23巻10号通巻264号 発行 平塚市博物館 3000

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel. 0463-33-5111 Fax. 31-3949